

## 平成22年度次世代育成支援行動計画懇談会での主な意見

### 【計画全般について】

- ① 区市町村が行動計画を策定する際にも自治体ごとのニーズ調査を行っているが、この調査を東京都が利用することは可能か。また、区で1つ、市で1つ、島しょで1つなど、定点観測的に区市町村の調査を活用する方法はとれるのか。
- ② 東京で子育てをする中で、何に喜びや楽しみを感じるのか（達成感・成果）
- ③ 家族類型の希望と現実のデータを指標に入れてもらいたい。希望と現実の差が埋まることに意味がある。
- ④ 計画の評価に当たっては、個別事業の進捗状況管理がベースにあり、その上でのアウトカム評価として認知度・利用度・満足度を見てもらいたい。それに加えて施策目標ごとのアウトカム、計画全体のアウトカムをそれぞれ突き合わせて評価をすることで、課題が見えてくる。
- ⑤ 区市町村の実施率だけではなく、対象者に対するカバー率もあわせて見てほしい
- ⑥ 大人視点の評価軸だけではなく、子供視点からの評価軸（自己肯定感、幸せ感など）も入れてもらいたい。
- ⑦ 年々子育てで孤立化している人が増えているため、親と地域の関わり合いについての視点が欲しい。
- ⑧ 子育て家庭だけではなく、まだ子供を生んでいない人へのアプローチも必要（未婚率、晩婚化率、年収など）
- ⑨ 区市町村レベルの子供の生活実態調査を活用して、その変化を見ることも必要。

## 【目標1について】

- ① 安心して出産できるかどうかだけでなく、快適に出産できるかどうかなど、出産の満足度も指標のひとつとして考えられる。
- ② 子供の健康を守るという視点で、小児科医療の普及率が指標として考えられる。
- ③ 医療体制の整備だけでなく、子供の健康問題で悩みを持っている親の割合などが分かるとよい。
- ④ 乳児家庭全戸訪問については実施箇所数ではなく、カバー率を入れなければ意味がない。

## 【目標2について】

- ① 保育所の利用率に対応させる形で、学童クラブについても全児童数に対する学童クラブ登録児童数の割合をとってもらいたい（親の就労の有無がわかるような形で）。
- ② 各年齢（0歳、1歳、2歳、3歳）の人口に対して、保育所定員数がどれだけ確保されているのか、保育所の年齢別整備率を出してもらいたい。
- ③ 2歳児の幼稚園教育が実質的に子育て支援としても使われており、また、3歳児以上でも保育園代わりとして利用していたり、保育園と掛け持ちで利用をしている実態もある。幼稚園がどのような形で活用されているのか、また、2歳児の幼稚園保育の普及度を指標化してもらいたい。
- ④ サービスの質をはかるひとつの指標として、保育施設職員の平均勤務年数や離職率はとれないか
- ⑤ 保育園での出費に関する数字を集計し、それを保育への満足度と合わせた形で反映することができるとよい。
- ⑥ WLBをはかるひとつの指標として、年休の取得率も指標としてあったほうがよい。
- ⑦ 都内企業の変化を見るために、一般事業主行動計画の策定率、くるみんの認定事業数を指標に入れておいたほうがよい。
- ⑧ 両立支援に関する助成金等を利用した企業における効果測定ができるとよい。
- ⑨ 男性の育児休業取得率を目標値としてほしい。

## 【目標4について】

- ① ひとり親の指標の中に、貧困ライン（生活する上での必要最小限の収入ライン）の考え方を取り入れ、支援を受ける前と後での変化を、貧困ラインを踏まえて集計できないか。
- ② ひとり親家庭で、困っていることの割合がどのように変化していくのかということは、アウトカムとしては重要な指標になる。
- ③ 子育てや家庭生活が安心して継続できているかどうかの指標として、障害児のいる家庭の離婚率も押さえられるとよい。
- ④ 障害のある子供は虐待の対象になる可能性が高い。障害と虐待の関係について何か分かるとよい。
- ⑤ 障害児のいる家庭についてのデータもあるとよい（気軽に相談できる人・場所の有無、社会参加・就労の状況（割合）、親の満足度、不満の内容など）
- ⑥ 児童デイサービスの満足度調査など、障害児の保護者を対象とした意識調査はあるのか。
- ⑦ 児童養護施設や知的障害施設の中でも、被虐待児や発達障害児など様々な状況の子供がいるため、それぞれどのような問題を抱えているのかという実態調査を行うことが大切。
- ⑧ 児童養護施設の中で、児童に対する職員の割合も明らかにしてもらいたい。
- ⑨ 原家庭で虐待を受け、養育里親へ預けられたにも関わらず、関係がうまくいかず再び施設に戻されてしまうなど、二重の虐待を受けている状況がある。養育里親施策を進めるのであれば、里親の支援機能を整備する必要がある。里親の支援機能の状況を数値化できないか。
- ⑩ 障害児の学童保育の利用状況やサポート体制を指標化できないか
- ⑪ 社会的養護では子供の指標だけではなく、職員の満足度も考えなければいけない。
- ⑫ 被措置児童の虐待（施設等へ入所措置された児童に対して、施設職員等が行う虐待）状況も数値的データとして考える必要がある。
- ⑬ 児童養護施設の職員の平均勤務年数は、仕事に対する満足度を図るひとつの指標にはならないか。
- ⑭ 家庭的養護を進めるに当たっては、社会的養護での小舎制と大舎制の割合を把握しておいたほうがよい。

- ⑮ 生活保護世帯やひとり親世帯、社会的養護を受けている子供達の高校進学率、高校修了率、専門学校・高等教育進学率をとってもらいたい。
- ⑯ 児童相談所の相談件数、死亡例の数、被措置児童の虐待件数などから見て、虐待が減ったかどうかということが指標になる。
- ⑰ 子育て不安が改善されてきているかどうかの指標として虐待感を持っている親の割合が使える。
- ⑱ 保育所での発達障害の子供の割合は、今後の子供施策を考える上で基礎データになる。

### 【目標5について】

- ① 子育て家庭にとって自転車は大事な足であり、子供を乗せる自転車の安全をどう確保していくのかということも問題となっている。